

インフルエンザがもたらす不安

岡野一男議員

○小・中学校のインフルエンザによる学級閉鎖と今後の学級運営について

質問 県は11月19日インフル

エンザ流行指数が31・74となったため、県内全域に警報を発令。昨シーズンの茨城県内の最流行期の流行指数は35・09で平成21年1月19日から1月25日であった。学級閉鎖も最近では新聞に取り上げられないが急増していると聞いている。学級閉鎖の基準と今までの閉鎖状況はどのようになっているか。二点目、学級閉鎖に伴う授業数の確保はどのように考えているか。これから流行のピークを迎え、学級閉鎖の基準緩和の動きはわからないが、授業数は実質的に不足し、その対策はどうするのか。進学を控えた父兄の心配もあると思う。しかし単に授業時数の確保のために学校行事をなくさないで欲しいと要望する。

答弁(教育長)当初は県の基準に従い同一集団内で7日以内にインフルエンザの症

状による2人の欠席者が出た段階で7日を目安に学級閉鎖を行ってきたが、10月後半からのインフルエンザによる学級閉鎖急増に対応し学級閉鎖の基準を見直した。(同一集団で7日以内に10%、20人以下の学級の場合2名以上発生した場合5日から7日の範囲で休業)閉鎖状況は9月以降11月30日現在延べ178学級(全学級の約89%)が学級閉鎖を実施した。



インフルエンザ訓練

議決の重みのとらえ方!

堀越道男議員

授業時数の確保については日課表を工夫し授業数を捻出したり、長期休業日を授業日にしたりする方法があり、教育課程の未履修・

未実施を回避するようにしている。しかしいずれの場合もできるだけ子供達や教員に多くの負担をかけないよう配慮している。

○福祉循環バスの見直し廃止について

質問 我々議員は住民の代表

で住民の声を代弁し、当局よりも身近で新しい意見を反映できると思うが、9月議会における議会決議に対して全く無視した形で一方的に強権的に福祉循環バスが廃止されつつある。議会に対する対応をどういう視線でみているのか尋ねる。

答弁(保健福祉部長)9月定例議会で福祉循環バスの存続と利便性の向上を求めめる請願書が可決。その後利便性や財政効果等を検討し、従来の方針通り12月末をもって廃止が決定。議会に

アンケートの声は福祉循環バスの見直しが7割。予約型乗合交通導入は50%もなかったが、市の政策があつて、それに合致させるためにアンケートを取り、違う答えが出て無視して進めるのは、住民参加を求める政策のあり方なのかと疑問を感じる。これが市の政策として生かされない姿というのはどうなのか。(再質問)議決の重みは感じる

が、見直しはしない。予約型乗合交通も最近苦情が聞かれる。その改善に努め、福祉バス復活も終わりにしないように要望する。

- 観光行政について
- 水道問題について
- 石下国生地区にある「節農村公園」の整備、管理について
- 〈その他の質問事項〉



福祉バス



自治区長会、交通安全母の会、障がい者団体、シルバークラブの代表者等で組織された市公共交通活性化協議会にアンケート結果を提示し検討を重ねた結果、予約型乗合交通の導入が決定された。